



〔海の状況(9/16～10/15)〕

- ・小川地先の表面水温… 9月中旬から10月中旬にかけてはなはだ高め(平年差1.5℃～)または高め(平年差1.0℃～1.5℃)で推移した。
- ・米ノ地先の表面水温… 9月中旬から9月末にかけてはなはだ高めで推移し、10月上旬から10月中旬にかけて平年並み(平年差-0.5℃～0.5)で推移した。

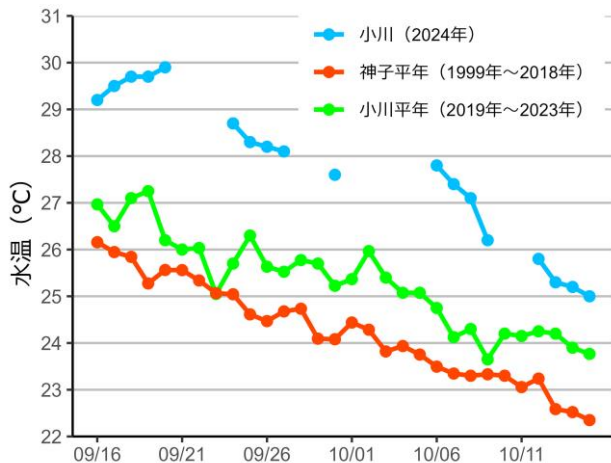


図1 若狭町小川地先における表面水温の推移

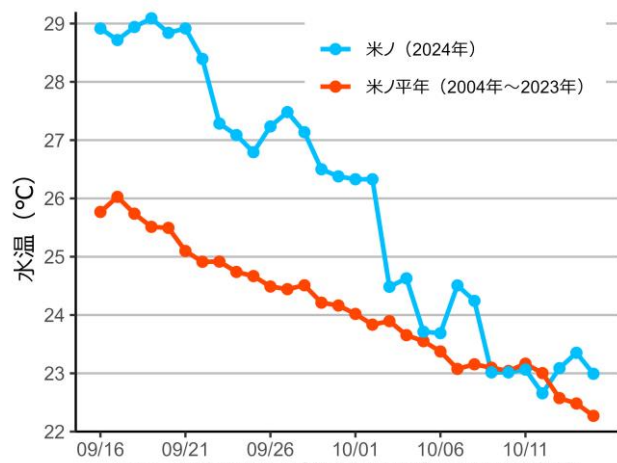
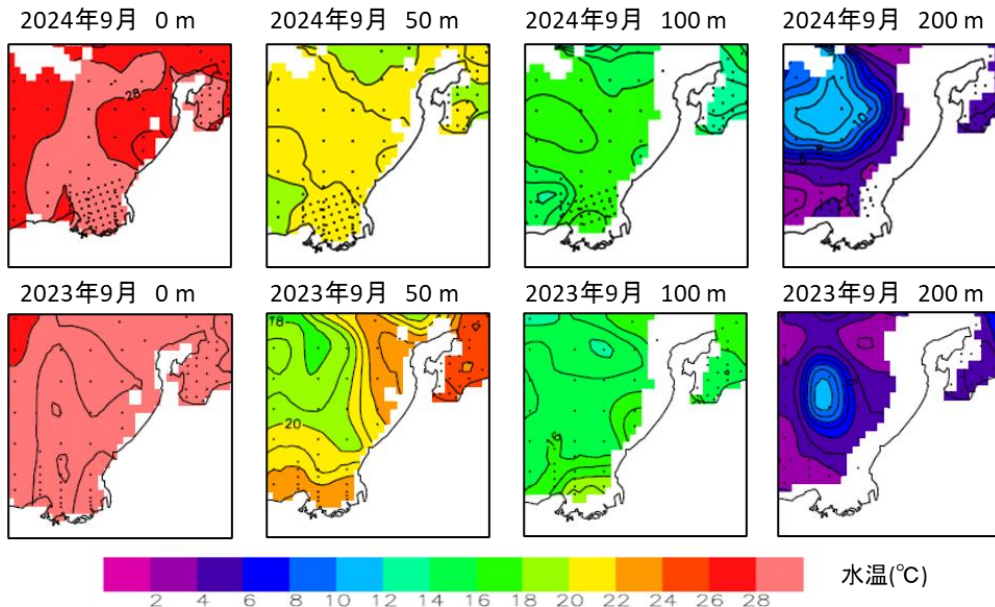


図2 越前町米ノ地先における表面水温の推移

〔若狭湾および周辺海域の海況：9月〕

9月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布について、水深50mの14℃～20℃の冷水域は昨年同時期は確認されたが、今年は確認されなかった。水深200mの6℃～12℃の暖水域は昨年同時期と比較して勢力が大きかった(図3)。



水温(℃)

図3 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図(水産研究・教育機構の日本海漁場海況速報より抜粋)

(漁場環境グループ 梶原 大郁)

大型クラゲ情報

本年度は、各地で大型クラゲの出現が確認されており、福井県でも定置網や底曳網で入網が報告されていますが、9月以降は減少傾向にあります。底曳網では10月10日以降は1網当たり数個程度の入網となっています。

水産試験場では、10月6～7日に三国沖および高浜沖で曳航式ビデオカメラによる調査を実施し、海底1haあたり平均4.4個を確認しました。この結果は2021年と同程度であり、大量漂着のあった2005、2006、2009年と比較すると少ない密度でした。今後は、対馬海峡での新たな流入の報告がないこと、海底に沈んだ大型クラゲは1か月程度で分解するとされることから、入網数は減少していくことが予想されます。

(漁場環境グループ 児玉 敦也)

〔県内の漁模様：9月〕

2024年9月の県内の総漁獲量は982 tで、前年同月を159 t上回り、平年を112 t下回った。

〔定置網〕

漁獲量は734 tで、前年同月を148 t上回った。サバ類、シイラ等が上回り、サワラ等が下回った。

〔底びき網〕

漁獲量は177 tで、前年同月を20 t下回った。アカガレイ等が上回り、ニギス等が下回った。

〔釣り・その他〕

漁獲量は71 tで、前年同月を31 t上回った。スルメイカ、アマダイ等が上回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(9月)

定置網 (kg)						底びき網 (kg)					
魚種名	2024年	2023年	平年	前年差	平年差	魚種名	2024年	2023年	平年	前年差	平年差
アジ類	16,809	18,112	39,076	-1,303	-22,267	タイ類	4,839	3,693	11,507	1,146	-6,668
(アジ)	2,408	3,327	8,671	-919	-6,263	(キダイ)	4,361	3,300	10,605	1,061	-6,244
(小アジ)	13,696	9,961	28,566	3,735	-14,870	カレイ類	55,728	53,165	82,796	2,563	-27,068
サバ類	88,135	22,671	21,718	65,464	66,416	(アカガレイ)	50,228	43,252	61,777	6,977	-11,549
(サバ)	72,032	22,317	19,921	49,715	52,112	(その他カレイ)	5,500	9,914	21,020	-4,413	-15,519
(ピンサバ)	16,103	354	1,798	15,749	14,305	アナゴ	1,616	2,539	4,844	-923	-3,228
カジキ類	15,377	15,048	7,203	330	8,174	ニギス	5,401	13,931	17,199	-8,529	-11,797
カツオ類	5,775	3,259	2,339	2,517	3,436	アカエビ	80,923	86,918	79,584	-5,995	1,339
ブリ類	33,456	54,783	73,056	-21,326	-39,599	その他エビ	7,593	10,201	6,281	-2,608	1,313
(ハマチ)	5,513	917	7,792	4,596	-2,279	その他	21,197	26,912	59,469	-5,715	-38,272
(ツバス)	23,605	46,565	43,647	-22,961	-20,043	合 計	177,298	197,359	261,679	-20,061	-84,382
(アオコ)	4,168	6,900	19,384	-2,732	-15,216	釣り、延縄、さし網、その他の漁法 (kg)					
ヒラマサ	9,772	4,274	4,024	5,498	5,748	魚種名	2024年	2023年	平年	前年差	平年差
シイラ	481,846	266,289	173,984	215,557	307,862	タイ類	10,387	10,113	8,254	274	2,132
サワラ	53,080	155,612	406,514	-102,531	-353,434	(マダイ)	628	811	1,230	-184	-603
タイ類	3,241	2,165	3,639	1,077	-398	(キダイ)	9,528	9,172	6,814	356	2,714
カマス	5,942	15,912	11,948	-9,970	-6,006	アマダイ	4,682	2,904	3,813	1,778	869
フグ類	1,468	1,777	6,960	-309	-5,492	メバル類	2,156	586	1,919	1,570	237
アオリイカ	3,709	4,160	6,050	-451	-2,341	スルメイカ	30,865	4,233	9,473	26,632	21,392
ケンサキイカ	1,182	10,559	4,956	-9,377	-3,774	タコ類	1,612	1,615	2,805	-3	-1,193
その他	13,709	10,717	19,191	2,992	-5,482	その他	21,440	20,759	25,616	681	-4,176
合 計	733,502	585,337	780,659	148,165	-47,157	合 計	71,141	40,209	51,879	30,932	19,262

※1 平年の値は2014～2023年の10年平均です。

※2 ()は銘柄、その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類です。

※3 数値は小数点以下を四捨五入しています。

全漁法 (kg)					
魚種名	2024年	2023年	平年	前年差	平年差
合 計	981,941	822,905	1,094,218	159,036	-112,277

〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県：9月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府：9月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県：9月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県：9月中旬～10月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。)

石川県…定置網…シイラ46 t、マサバ27 t、フクラギ20 t、マアジ18 t、カマス14 t、サワラ・サゴシ5 t

京都府…定置網…シイラ211 t、サワラ92 t、混じり40 t、サバ類32 t、ブリ(ハマチ、アオコ)19 t

兵庫県…定置網…2,248 kg、マサバ827 kg、シイラ377 kg、ツバス260 kg、カツオ140 kg、カワハギ137 kg

鳥取県…まき網…マイワシ8,953 t、ブリ類1,222 t、ウルメ168 t、マアジ139 t、マサバ49 t

(漁場環境グループ 矢倉 卓磨)

「越前がに」の資源状況について

今年も、11月6日に福井が誇るブランド「越前がに」漁の解禁を迎えます。6月に調査船「福井丸」で実施したトロール調査結果等を基に、本県沖合のズワイガニ資源量を推定しましたので、お知らせします。

漁獲動向（図1）

福井県のズワイガニ漁獲量（県底曳網漁業協会集計）は、最低であった昭和54年度以降は増加傾向となり、近年は400t前後で推移しています。令和5年度の漁獲量は443tで、カタガニおよびセイコガニの漁獲が好調に推移したことにより令和4年度を29トン上回りました。

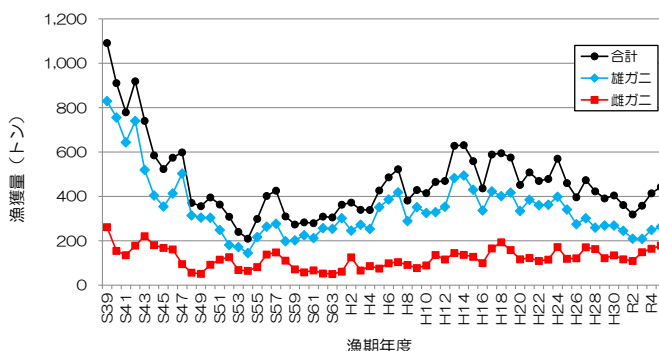


図1 ズワイガニ漁獲量経年変化

資源状況（図2）

雄についてみると、今漁期の漁獲の主体となる12歳・13歳の資源水準は昨漁期よりもやや高い状況であると思われます。また、今漁期から小型の水ガニとして漁獲の対象となる11歳の資源水準は昨漁期並みに高い状況にあると考えられます。今漁期に漁獲対象となる雄の資源量を推定したところ、4,055tと算出されました。

雌についてみると、昨年引き続き資源量が高かった年級群が漁獲対象に加わったことにより、今漁期の漁獲対象となるクロコ（経産ガニ）の資源水準は高い状態に維持され、資源量を推定したところ1,389tと算出されました。

また、雄雌ともに、来漁期以降に加入する10歳の資源水準も昨漁期同様に比較的高い見込みです。一方、9歳未満の小型個体の資源水準はやや低調となっており、将来に渡って安定的な漁獲を維持するためにも引き続き資源管理に努めるとともに、小型個体の資源保護が大切になります。

まとめ

昨漁期に引き続き資源状況は良好であり、今漁期の越前がに漁も安定した漁獲が見込まれます。

（海洋資源研究センター 元林 裕仁）

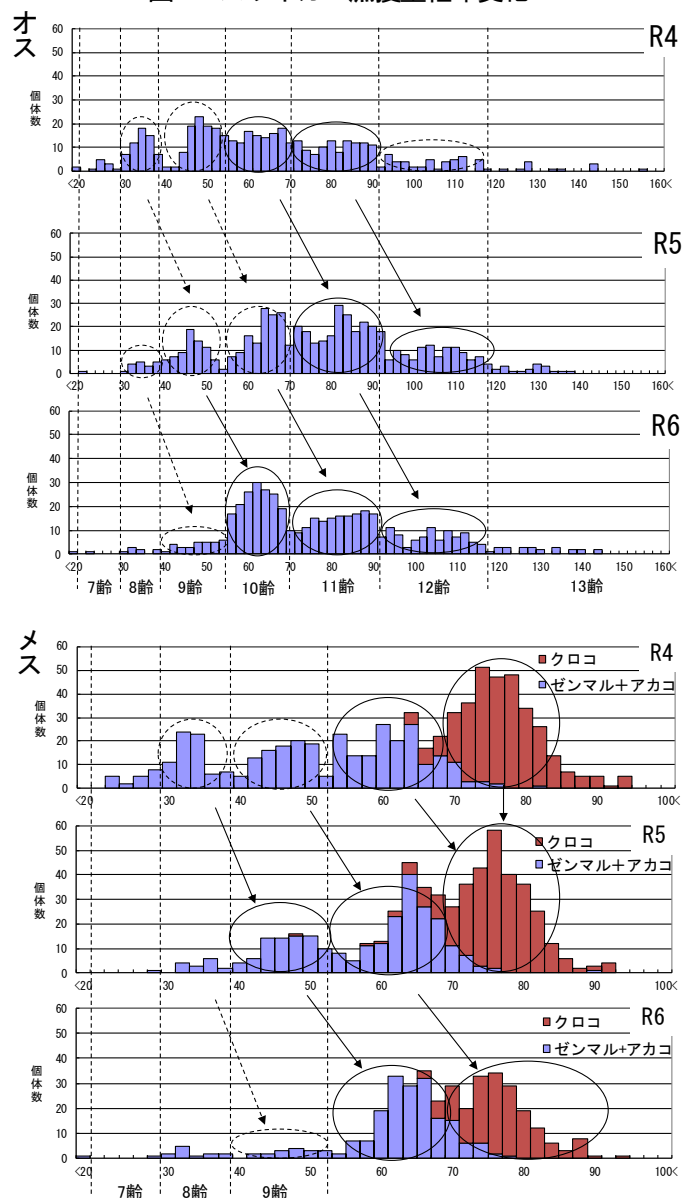


図2 トロール調査で採集したズワイガニの甲幅組成（横軸：甲幅mm 縦軸：個体数）